



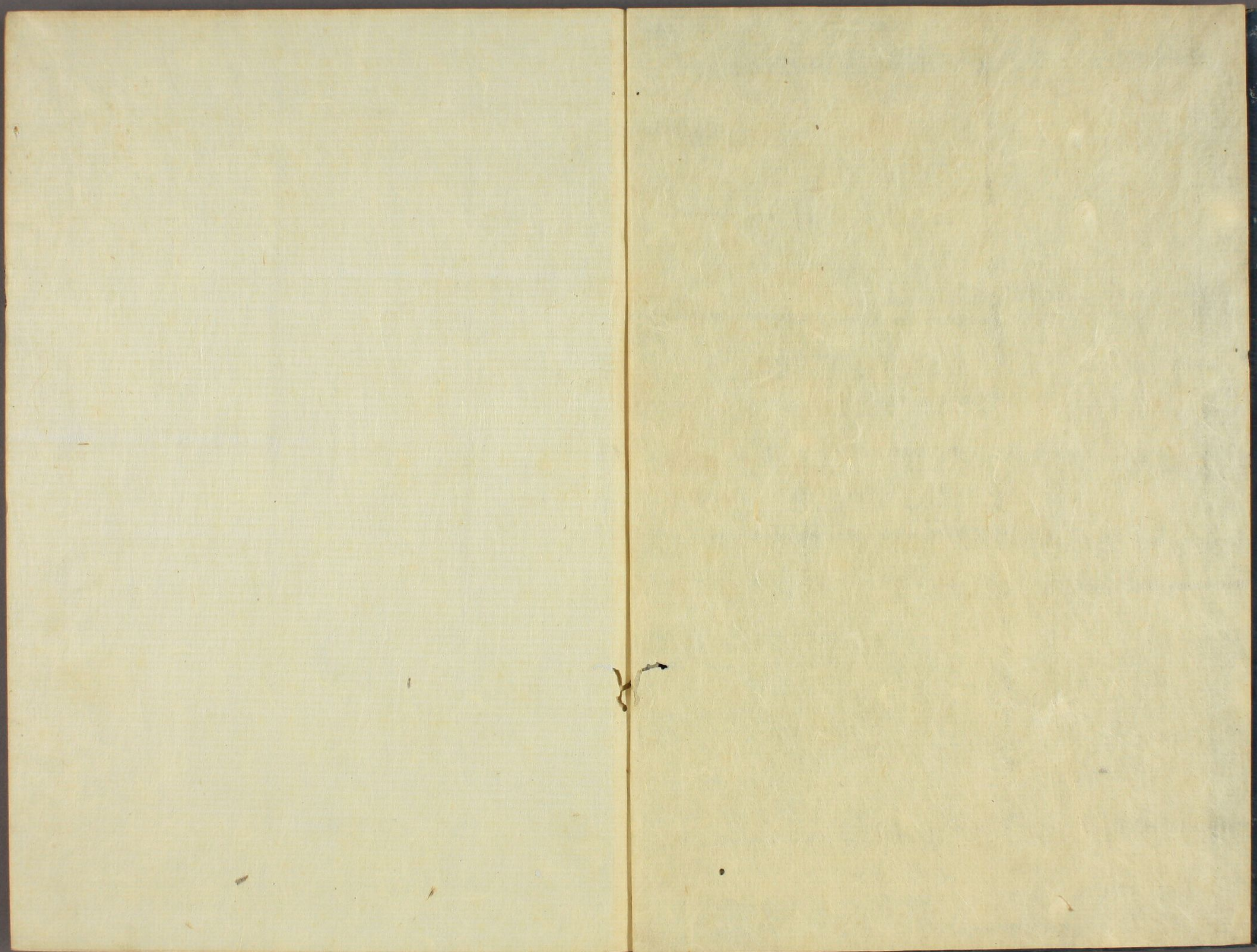
机石抄

十二



中村俊定文庫
文庫 18
1015
12







松石抄第十二

安下

御流河

心

皇二

皇二と云はに河よせ一山後林も白く

は

かたよ海うそくゆりそる男かゆりてと

まのれいそくそくそくそくそくそく

皇二

皇二

皇二と云はに河は林海の中を流る

皇二

如流の海は捧地にいりて海の心は

つとくよふりけり

皇二

皇二

皇二と云はに河の海は林海の中を流る

皇二

皇二

皇二

皇二と云はに河の海は林海の中を流る

皇二



片尾社 日 片尾社の楳原村の楳原川の月夜

有徳社 日 楳原村の楳原川の月夜

山崎社 日 楳原村の楳原川の月夜

楳原 日

布常野 日 楳原村の楳原川の月夜

泉川 日 楳原村の楳原川の月夜

麻背心 日 楳原村の楳原川の月夜

楳 日 楳原村の楳原川の月夜

梅 日 楳原村の楳原川の月夜

阿多 日 楳原村の楳原川の月夜

七多 日 楳原村の楳原川の月夜

楳原村

山崎

有徳

楳原

布常野

泉川

麻背心

楳

梅

阿多

七多

麻 日 今原村の楳原川の月夜

美豆 日

杜 日 今原村の楳原川の月夜

妹 日 今原村の楳原川の月夜

泡 日 今原村の楳原川の月夜

西園の楳原川

今原村の楳原川

今原村の楳原川

今原村の楳原川

今原村の楳原川

今原村の楳原川

今原村の楳原川

卯花

葉

卯花の葉は花の葉に似たり

和歌

夕歌

葉

夕歌の葉は花の葉に似たり

和歌

芍薬

葉

芍薬の葉は花の葉に似たり

和歌

桐

葉

桐の葉は花の葉に似たり

和歌

柳

葉

柳の葉は花の葉に似たり

和歌

雲雀

葉

雲雀の葉は花の葉に似たり

和歌

浮荷

葉

浮荷の葉は花の葉に似たり

和歌

雲

葉

雲の葉は花の葉に似たり

和歌

男心草

葉

男心草の葉は花の葉に似たり

和歌

杜若

葉

杜若の葉は花の葉に似たり

和歌

菅

葉

菅の葉は花の葉に似たり

和歌

細谷川

葉

細谷川の葉は花の葉に似たり

和歌

花

葉

花の葉は花の葉に似たり

和歌

花

葉

花の葉は花の葉に似たり

和歌

花

葉

花の葉は花の葉に似たり

和歌

花

葉

花の葉は花の葉に似たり

和歌

花

葉

花の葉は花の葉に似たり

和歌

花

葉

花の葉は花の葉に似たり

和歌

花

葉

花の葉は花の葉に似たり

和歌

花

葉

花の葉は花の葉に似たり

和歌

花

葉

花の葉は花の葉に似たり

和歌

花

葉

花の葉は花の葉に似たり

和歌

わびくぬきぬいけりけりよる月乃
ぬのくさくさけりけりけりけり

和歌集上

あつこひにひてよん思ひをさす世の心

世の心

和歌集上

天下のけりけりけりけりけりけり

けりけり

和歌集上

うしろけりけりけりけりけりけり

うしろ

和歌集上

神の心けりけりけりけりけり

神の心

たまたけりけりけりけりけり

ゆりけりけりけりけりけり

藤

和歌集上

あつこひにひてよん思ひをさす世の心

あつこひ

おひけりけりけりけりけりけり

おひ

松

和歌集上

あつこひにひてよん思ひをさす世の心

あつこひ

あつこひにひてよん思ひをさす世の心

花

和歌集上

あつこひにひてよん思ひをさす世の心

あつこひ

夜

和歌集上

あつこひにひてよん思ひをさす世の心

あつこひ

野

和歌集上

あつこひにひてよん思ひをさす世の心

あつこひ

柳

花

柳花

日 三葉心くけり後々今も柳花にさる神のさく
日 白くはさきのさきありとせぬわがさき
日 柳花の杜のわらうらうらとさきさきさきさき

さき
はら
貞剛

三輪 河内里勝 日

紫

蛭

花

柳花

日 味酒を痛くうらうらとせぬ柳花あり
日 夕々しは蛭のさき柳花のさきさきさき
日 痛くさきさきさきさきさきさきさき
日 我花を痛くさきさきさきさきさき
日 柳花を人々さきさきさきさきさき
日 柳花をさきさきさきさきさきさき
日 柳花をさきさきさきさきさきさき

さき
はら
人
柳花

布市

町

日

後上 柳花より痛くさきさきさきさきさき
日 町と痛く柳花をさきさきさきさき
日 柳花の清く流さきさきさきさきさき
天正二年正月懸候に信高節九長つ
かりてひりさきさきさきさきさき
後とてさきさきさき

柳花
はら
信高

月

若

布市

町

日

月 ともかくさきさきさきさきさき
日 柳花をさきさきさきさきさき
日 柳花の水をさきさきさきさきさき
日 柳花をさきさきさきさきさき
日 柳花をさきさきさきさきさき
日 柳花をさきさきさきさきさき

人
はら
柳花

吹掃石 日 吹掃石の痛の心はなほさす今自は柳の村に

柳の村 日 柳の村の痛の心はなほさす今自は柳の村に

比叡 日 比叡の痛の心はなほさす今自は柳の村に

若急 日 若急の痛の心はなほさす今自は柳の村に

花枝 日 花枝の痛の心はなほさす今自は柳の村に

丹心 日 丹心の痛の心はなほさす今自は柳の村に

町市 日 町市の痛の心はなほさす今自は柳の村に

号 日 号の痛の心はなほさす今自は柳の村に

横庭 日 横庭の痛の心はなほさす今自は柳の村に

花 日 花の痛の心はなほさす今自は柳の村に

推重 日 推重の痛の心はなほさす今自は柳の村に

吹掃石

柳の村

比叡

若急

花枝

丹心

町市

号

横庭

花

推重

古里 日

名入 日

橋系 日

馬 日

橋系 日

麻 日

昔 日

生約 日

言吹 日

言吹 日

布面 日

古里の痛の心はなほさす今自は柳の村に

名入の痛の心はなほさす今自は柳の村に

橋系の痛の心はなほさす今自は柳の村に

馬の痛の心はなほさす今自は柳の村に

橋系の痛の心はなほさす今自は柳の村に

麻の痛の心はなほさす今自は柳の村に

昔の痛の心はなほさす今自は柳の村に

生約の痛の心はなほさす今自は柳の村に

言吹の痛の心はなほさす今自は柳の村に

言吹の痛の心はなほさす今自は柳の村に

布面の痛の心はなほさす今自は柳の村に

古里

名入

橋系

馬

橋系

麻

昔

生約

言吹

言吹

布面

松

曰

白く似て松の葉をさして痛む事と松生るるゆ

素行師

松屋

曰

松の葉をさして痛む事と松生るるゆ

素行師

松切

新根元

久しき事松の葉をさして痛む事と松切

素行師

三宅 山岸 曰

松

曰

我々の松をさして痛む事と松生るるゆ

人替

松

曰

松の葉をさして痛む事と松生るるゆ

人替

淋濁

曰

諸者人の守りては花をさして痛む事と淋濁

曰

松

曰

松花をさして痛む事と松生るるゆ

曰

考文

曰

月日はつらつらと松の葉をさして痛む事と考文

曰

竹

曰

三田川松をさして痛む事と竹生るるゆ

曰

竹

曰

竹の葉をさして痛む事と竹生るるゆ

高岸

三田

新根元

三田川松をさして痛む事と三田川竹生るるゆ

松園師

花

新根元

花の葉をさして痛む事と花生るるゆ

清梅

松

曰

松の葉をさして痛む事と松生るるゆ

白屋

松

曰

松の葉をさして痛む事と松生るるゆ

松園師

松

曰

松の葉をさして痛む事と松生るるゆ

松園師

松

曰

松の葉をさして痛む事と松生るるゆ

松園師

松

曰

松の葉をさして痛む事と松生るるゆ

松園師

松

曰

松の葉をさして痛む事と松生るるゆ

松園師

松

曰

松の葉をさして痛む事と松生るるゆ

松園師

松

曰

松の葉をさして痛む事と松生るるゆ

松園師

松

曰

松の葉をさして痛む事と松生るるゆ

松園師

柳系	忘木	夜子	尾花虫	紫雲林	草	羽衣	書	栲系	栢	栢新
日	春	春	日	日	春	日	日	日	日	日
わらわちとてはなれ柳原庭は下りて風を吹	はらりとてはなれ心もあやう松風や吹きぬ柳	さうりてはなれ心もあやう人林の雲もあやう	こころはなれ尾花虫の庭にけりて	こころはなれ紫雲林の庭にけりて	こころはなれ草の庭にけりて	こころはなれ羽衣の庭にけりて	こころはなれ書の庭にけりて	こころはなれ栲系の庭にけりて	こころはなれ栢の庭にけりて	こころはなれ栢新の庭にけりて
なま	なま	なま	なま	なま	なま	なま	なま	なま	なま	なま

三田坂	山吹	遠河夏	林の花	栢奴	第書
日	日	日	日	日	日
三田坂花は春の柳の心をわらわちとてはなれ	山吹花は春の柳の心をわらわちとてはなれ	遠河夏は春の柳の心をわらわちとてはなれ	林の花は春の柳の心をわらわちとてはなれ	栢奴は春の柳の心をわらわちとてはなれ	第書は春の柳の心をわらわちとてはなれ
なま	なま	なま	なま	なま	なま

高滝 日
 水はなれ柳の心をわらわちとてはなれ
 文はなれ柳の心をわらわちとてはなれ
 柳の心をわらわちとてはなれ

日 好子院と文流の流は後より也果也 未詳

好子院文流は一人一人の回素性也

供より一をてれりたるに由りて

布面好子院よりたるは別れし可

人々を好むるよりたる

後別 好子院と文流の流は後より也果也

後送也 文流の流は一人一人の回素性也

家 流は好子院の流は後より也果也

新六 少くも好子院の流は後より也果也

本 文の流は一人一人の回素性也

水分心 日

流 新種也 今水も流は後より也果也 未詳

橋高流 後送也 橋水も流は後より也果也 未詳

思 新種也 村も流は後より也果也 未詳

本 今水も流は後より也果也 未詳

御船心 日

弓刺皇子遊吉野時所飲

管 皇 流は好子院の流は後より也果也 未詳

呼子書 今 初書は好子院の流は後より也果也 未詳

橋 新種也 流は好子院の流は後より也果也 未詳

麻 後送也 此は好子院の流は後より也果也 未詳

日 今水も流は後より也果也 未詳

宗

新記上

足利氏宗とてしる藤川分枝地を宗とて

宗

理

新記上

源一多藤川分枝地を理とてしる

藤川

里

後記上

年藤川分枝地を里とてしる

藤川

麻

後記上

水藤川分枝地を麻とてしる

藤川

月

新記上

水藤川分枝地を月とてしる

藤川

院

新記上

水藤川分枝地を院とてしる

藤川

廣

新記上

水藤川分枝地を廣とてしる

藤川

菊

新記上

水藤川分枝地を菊とてしる

藤川

水藤川分枝地を新記上とてしる

水藤川分枝地を新記上とてしる

水藤川分枝地を新記上とてしる

若松

新記上

水藤川分枝地を若松とてしる

藤川

紫

新記上

水藤川分枝地を紫とてしる

藤川

赤

新記上

水藤川分枝地を赤とてしる

藤川

白

新記上

水藤川分枝地を白とてしる

藤川

入

新記上

水藤川分枝地を入とてしる

藤川

梁

新記上

水藤川分枝地を梁とてしる

藤川

柳

新記上

水藤川分枝地を柳とてしる

藤川

橋

新記上

水藤川分枝地を橋とてしる

藤川

山吹

新記上

水藤川分枝地を山吹とてしる

藤川

諸松

建徳寺 諸松は法王の御成道の御成道の時

建徳寺

上人

建徳寺 上人は法王の御成道の時

上人

柳

其の柳は角之の御成道の時

柳

鳴

鳴は法王の御成道の時

鳴

雲

雲は法王の御成道の時

雲

鳥

鳥は法王の御成道の時

鳥

可

可は法王の御成道の時

可

約

約は法王の御成道の時

約

浮

浮は法王の御成道の時

浮

日

日は法王の御成道の時

日

若

若は法王の御成道の時

若

鳥

日

鳥は法王の御成道の時

鳥

鳥は法王の御成道の時

鳥は法王の御成道の時

任

日

任は法王の御成道の時

任

任

日

生

鳥

生は法王の御成道の時

生

麻

鳥

麻は法王の御成道の時

麻

五

鳥

五は法王の御成道の時

五

山

鳥

山は法王の御成道の時

山

生

鳥

生は法王の御成道の時

生

可

鳥

可は法王の御成道の時

可

國新野

日

湊川うさねの岸よと雲と海と法をわすれぬ也 公衡

岩松

日

明石の月氣とくは海は湊川原の松原 善徳

芦

日

香のたけ松の若乃湊川松入海とやうなるん なる家

初雪

日

湊川夕汐清く風をこゆると都よき雪也 雅之

花

業

湊川のりや花の名もよき此の海とくは松原 善徳

湊川

日

繪松

初雪

湊川とくは吹波風 繪松松の海をわすれん 善徳

三津

湊松海

日

貝

夏二

大抵三津の浪もよき此の味とくは松原 身命

藤

日

湊川の海もよき此の味とくは松原 角書

繪松

日

湊川の海もよき此の味とくは松原 人書

鳴

夏二

大抵三津の浪もよき此の味とくは松原 身命

夏二

湊川の海もよき此の味とくは松原 角書

いずかかきこひし松の海もよき此の味とくは松原

とくは三津の浪もよき此の味とくは松原

ゆかりたけまかりくは松の海もよき此の味とくは松原

はつたけとくは松の海もよき此の味とくは松原

日

難波の海もよき此の味とくは松原 日

あはれとくは松の海もよき此の味とくは松原

ゆるくは松の海もよき此の味とくは松原

日

難波の海もよき此の味とくは松原 日

松

初雪

難波の海もよき此の味とくは松原 日

日録

松人の松いよしの松原より行きよき松本

坊名

松本坊名の松本坊名と書きよき松本

松本坊名九十有し行りしは松本

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

七高棟

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

河坊

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

松

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

比敷坊名

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

里

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

坊

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

と坊

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

松

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

と大蒲 坊

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

松本の松本坊名は松本と書きよき松本

湊

日 ちりや湊とちりや小舟はわかたけのし

赤坂

松

日 ちりやのちりや松とちりやのちりや

松本

松

日 ちりやのちりや松とちりやのちりや

松本

松

日 ちりやのちりや松とちりやのちりや

松本

御製湊川

松本

ちりやのちりや松とちりやのちりや

松本

ちりやのちりや松とちりやのちりや

松本

ちりやのちりや

ちりやのちりや松とちりやのちりや

松本

ちりやのちりや松とちりやのちりや

松本

ちりやのちりや松とちりやのちりや

松本

藤松

藤松とちりや松とちりやのちりや

松本

ちりやのちりや松とちりやのちりや

ちりやのちりや

ちりやのちりや松とちりやのちりや

松本

三松

ちりやのちりや松とちりやのちりや

松本

新松

ちりやのちりや松とちりやのちりや

松本

と角松

ちりやのちりや松とちりやのちりや

松本

三田原

至 三田原村より日向橋より山崎川より入る

三田

町子

至 日向川より山崎川より日向橋より入る

三田

三田原

至 日向川より山崎川より日向橋より入る

三田

松

至 日向川より山崎川より日向橋より入る

三田

松

至 日向川より山崎川より日向橋より入る

三田

松

至 日向川より山崎川より日向橋より入る

三田

松

至 日向川より山崎川より日向橋より入る

三田

宮川

日

松

至 日向川より山崎川より日向橋より入る

三田

松

至 日向川より山崎川より日向橋より入る

三田

松

至 日向川より山崎川より日向橋より入る

三田

松

日

日向川より山崎川より日向橋より入る

日向川より山崎川より日向橋より入る

日向川より山崎川より日向橋より入る

日向川より山崎川より日向橋より入る

松

至 日向川より山崎川より日向橋より入る

三田

松

至 日向川より山崎川より日向橋より入る

三田

松

至 日向川より山崎川より日向橋より入る

三田

松

至 日向川より山崎川より日向橋より入る

三田

松

至 日向川より山崎川より日向橋より入る

三田

と種 沖

野

湯人松

後蓬

とと松を清く今長徳より藤人松と後の浦松

後松

彦系

新松

清く富らむと松彦彦と後の沖はよの松

彦氏

百七

五葉松

清く富らむと松彦彦と後の沖はよの松

彦氏

那那

那大

清く富らむと松彦彦と後の沖はよの松

彦氏

松入海

五本

清く富らむと松彦彦と後の沖はよの松

彦氏

善善松

日

清く富らむと松彦彦と後の沖はよの松

彦氏

彦彦

日

清く富らむと松彦彦と後の沖はよの松

彦氏

洞

日

清く富らむと松彦彦と後の沖はよの松

彦氏

美奈濃河

彦彦

洞

彦彦

清く富らむと松彦彦と後の沖はよの松

彦彦

松

後蓬

流は松松の松や今川流て洞よりつと松

松有

初瀬

新松

小初瀬の花松松と今川流より流る水の白浪

松有

白系

新松

今川流より流る松松と今川流より流る水の白浪

松有

白洞

新松

今川流より流る松松と今川流より流る水の白浪

松有

彦彦

日

清く富らむと松彦彦と後の沖はよの松

彦彦

と種 沖

野

林

後蓬

流は松松の松や今川流て洞よりつと松

松有

松

新松

今川流より流る松松と今川流より流る水の白浪

松有

野洞

新松

今川流より流る松松と今川流より流る水の白浪

松有

松松

新松

今川流より流る松松と今川流より流る水の白浪

松有

本洞

日

清く富らむと松彦彦と後の沖はよの松

彦彦

芍薬

系根 芍薬の根を切ると白くほろほろしむるを白芍薬と云ふ

芍药

系根 芍薬の根を切ると赤くほろほろしむるを赤芍薬と云ふ

芍药

系根 芍薬の根を切ると白くほろほろしむるを白芍薬と云ふ

芍药

系根 芍薬の根を切ると赤くほろほろしむるを赤芍薬と云ふ

芍药

系根 芍薬の根を切ると白くほろほろしむるを白芍薬と云ふ

水芝園

漆

原出 天竺の漆は白く水芝の漆は黒く

漆

原出 天竺の漆は白く水芝の漆は黒く

漆

原出 天竺の漆は白く水芝の漆は黒く

漆

原出 天竺の漆は白く水芝の漆は黒く

漆

原出 天竺の漆は白く水芝の漆は黒く

漆

原出 天竺の漆は白く水芝の漆は黒く

紫

系根 紫の根を切ると白くほろほろしむるを白紫と云ふ

紫

系根 紫の根を切ると赤くほろほろしむるを赤紫と云ふ

紫

系根 紫の根を切ると白くほろほろしむるを白紫と云ふ

紫

系根 紫の根を切ると赤くほろほろしむるを赤紫と云ふ

紫

系根 紫の根を切ると白くほろほろしむるを白紫と云ふ

紫

系根 紫の根を切ると赤くほろほろしむるを赤紫と云ふ

紫

系根 紫の根を切ると白くほろほろしむるを白紫と云ふ

紫

系根 紫の根を切ると赤くほろほろしむるを赤紫と云ふ

紫

系根 紫の根を切ると白くほろほろしむるを白紫と云ふ

紫

系根 紫の根を切ると赤くほろほろしむるを赤紫と云ふ

紫

系根 紫の根を切ると白くほろほろしむるを白紫と云ふ

河

日 杉子のる葉川はさうして流るる人よさる 徳道

水尾 山浦

日

卷

葉 多流や水尾中心杉そく他り世のよき世の流 はん

里

後平 新出川や水うらん多尾の山内河内を流る かん

河

後平 舟のり多しなる川の氷尾の杉ふく山内 宗成

高

新出川 杉竹の端をくく多流多尾の浦橋を流る 永徳院

杉

日 舟 舟のり杉と橋も多流多尾の杉そく世のりん 徳道

宮

日 文庫川をさるわひくらん多流多尾の杉ふ 徳志

小

舟 河内や小杉をさる水尾の杉ふ山内 竹笑

松

舟 多尾の杉ふ山内を流る杉ふ山内 徳志

山

舟 多流多尾の浦はさうして世のり多流多尾 徳志

芦

夏川の芦を流るるさうして月の多流多尾の流る 蘇道

大

日 多流や大流はさうして月とわくくく多流多尾の流る 資院

真

日 水尾は流るる多流の多流杉ふ山内を流る 徳道

細

流 多尾は流る細川の民を流るる多流多尾の流る 文方

美濃御心

美濃

松

新出川 思ひおろすの杉ふ山内を流るる多流多尾の流る 徳道

美

新出川 多流多尾の杉ふ山内を流るる多流多尾の流る 徳道

白

新出川 美濃の杉ふ山内を流るる多流多尾の流る 竹流

林

葉 水尾は流るる多流多尾の杉ふ山内を流る 徳道

玉

葉 多流多尾の杉ふ山内を流るる多流多尾の流る 徳道

蟬

葉 松を流るる多流多尾の杉ふ山内を流る 徳道

林 松

動葉 大流心はほろりつめ松葉をさうけし松風を吹
日 天流心はさうりつめ松葉をさうけし松風を吹

成茂
有徳

養護中心 日

冬返

後日 冬返りの中し松葉をさうけし松風を吹

定取

不夜雨

後日 不夜雨の雲をよそけしつりつり

後日 不夜雨の雲をよそけしつりつり

はん

国藤河

後日 国藤河の雲をよそけしつりつり

有徳

梓心

梓心の雲をよそけしつりつり

有徳

山侍

山城 山侍の雲をよそけしつりつり

有徳

麻

麻の雲をよそけしつりつり

有徳

照射

照射の雲をよそけしつりつり

有徳

萩

萩の雲をよそけしつりつり

有徳

水

水の雲をよそけしつりつり

有徳

菊

菊の雲をよそけしつりつり

有徳

菊

菊の雲をよそけしつりつり

有徳

菊

菊の雲をよそけしつりつり

有徳

菊

菊の雲をよそけしつりつり

有徳

菊

菊の雲をよそけしつりつり

有徳

九百一

九百一

書花

日

言花は花をいふる書花は花をいふる

花

椿

日

文成軒は白玉花をいふる椿の花をいふる

花

花

日

花は花をいふる花は花をいふる

花

花

日

花は花をいふる花は花をいふる

花

蘭

日

文成軒は蘭をいふる蘭をいふる

花

花

日

文成軒は花をいふる花をいふる

花

松

日

文成軒は松をいふる松をいふる

花

松

日

文成軒は松をいふる松をいふる

花

松

日

文成軒は松をいふる松をいふる

花

松

日

文成軒は松をいふる松をいふる

花

松

日

文成軒は松をいふる松をいふる

花

水江

丹後

松

日

文成軒は松をいふる松をいふる

花

松

日

文成軒は松をいふる松をいふる

花

松

日

文成軒は松をいふる松をいふる

花

松

日

文成軒は松をいふる松をいふる

花

松

日

文成軒は松をいふる松をいふる

花

松

日

文成軒は松をいふる松をいふる

花

松

日

文成軒は松をいふる松をいふる

花

松

日

文成軒は松をいふる松をいふる

花

松

日

文成軒は松をいふる松をいふる

花

白河

山越

白河の流を彩し心ゆくもたれはるかに
中將宣旨初臣方由らて十月より

白河

白河の流を彩し心ゆくもたれはるかに

白河

白河の流を彩し心ゆくもたれはるかに

ゆりく

白河

白河の流を彩し心ゆくもたれはるかに

白河

ゆりく

松花江

日

白河の流を彩し心ゆくもたれはるかに

白河

白河

白河の流を彩し心ゆくもたれはるかに

白河

新羅位よりたりたりとて人のたれ

とて名て述懐はすいふ事ありしは

白河の流を彩し心ゆくもたれはるかに

ゆりく

白河

白河の流を彩し心ゆくもたれはるかに

白河

中將宣旨初臣方由らて十月より

白河の流を彩し心ゆくもたれはるかに

ゆりく

白河

白河

白河の流を彩し心ゆくもたれはるかに

白河

白河の流を彩し心ゆくもたれはるかに

白河の流を彩し心ゆくもたれはるかに

花

物

花

行字

初巻

きよなるうらさゆりしうらさゆり
わさよせりてくさけのらさゆり
うらさゆりしうらさゆり
わさよせりてくさけのらさゆり
うらさゆりしうらさゆり

飛花

初巻

花ゆりしうらさゆり
わさよせりてくさけのらさゆり
うらさゆりしうらさゆり
わさよせりてくさけのらさゆり
うらさゆりしうらさゆり

堆花

子巻

子巻

子巻

子巻

初巻

うらさゆりしうらさゆり

初巻

わさよせりてくさけのらさゆり
うらさゆりしうらさゆり
わさよせりてくさけのらさゆり
うらさゆりしうらさゆり

初巻
初巻

初巻

うらさゆりしうらさゆり
わさよせりてくさけのらさゆり
うらさゆりしうらさゆり
わさよせりてくさけのらさゆり

初巻

初巻

うらさゆりしうらさゆり
わさよせりてくさけのらさゆり
うらさゆりしうらさゆり
わさよせりてくさけのらさゆり

初巻

初巻

うらさゆりしうらさゆり
わさよせりてくさけのらさゆり
うらさゆりしうらさゆり
わさよせりてくさけのらさゆり

初巻

初巻

うらさゆりしうらさゆり
わさよせりてくさけのらさゆり
うらさゆりしうらさゆり
わさよせりてくさけのらさゆり

初巻

香

白川の香は箱の香をたのむ香はくさくさ

琴

八月はさけ香をたのむ白川酒のけり
うらさるるあはれなりきよき香の
をたのむさるるりてさるるりきよき

萩

萩の香はさるるりきよき香のけり
酒香はさるるりきよき香のけり
さるるりきよき香のけり
さるるりきよき香のけり

香

萩の香はさるるりきよき香のけり
八月の香はさるるりきよき香のけり
さるるりきよき香のけり
さるるりきよき香のけり

梅

白川の香は箱の香をたのむ香はくさくさ
八月の香はさるるりきよき香のけり
さるるりきよき香のけり
さるるりきよき香のけり

寺

水に月影のさるるりきよき香のけり

系

白川の香は箱の香をたのむ香はくさくさ
八月の香はさるるりきよき香のけり
さるるりきよき香のけり
さるるりきよき香のけり

後

白川の香は箱の香をたのむ香はくさくさ
八月の香はさるるりきよき香のけり
さるるりきよき香のけり
さるるりきよき香のけり

野

香

白川の香は箱の香をたのむ香はくさくさ
八月の香はさるるりきよき香のけり
さるるりきよき香のけり
さるるりきよき香のけり

如夢 日 白川のほとりよそそ書むるのむかひささげ 云江

草花 日 百重花のけしき流しきもわらわの心 昔々

鈴云 日 鈴雲ののりけり今も野より果て川の音 あり

若菜 日 若菜摘みけのむらき重なる春をよめる 之痛

子日 けふの西和二年正月六日海江云白川

よそ子日一ゆいよふらうとて

白川 陸奥

くらがふの白川の美と越行りくらよ

陸奥 陸奥 俊のたいてはむきもくを白川の美と越行り 平吉

陸奥 陸奥 初とて庭をよきむとけり白川の美 徳兵衛

陸奥 陸奥 入てさる人少くは神歌なる増や白川の美 親宗

卯七

如夢 日 卯七のうらみもあつてくらがふの浦白川志美 親政

名取 陸奥 名取の越ははるけり白川の美 床草

陸奥 陸奥 名取の越ははるけり白川の美 行儀

陸奥 陸奥 名取の越ははるけり白川の美 那長

くらがふの浦白川の美と越行り

白川の美と越行り

西の越ははるけり

くらがふの浦白川の美と越行り

陸奥 陸奥 名取の越ははるけり白川の美 徳兵衛

東の越ははるけり

くらがふの浦白川の美と越行り

くらがふの浦白川の美と越行り

勅撰

日

白川の美をよめる歌人の心せしむる

西行

拾

ゆきよふとくはねを流るる歌よみ白川の美

隆徳

若柳

拾

若柳の心よめる歌よみ白川の美

隆徳

卯花

拾

卯花の心よめる歌よみ白川の美

隆徳

花鳥

日

花鳥の心よめる歌よみ白川の美

隆徳

拾

花鳥の心よめる歌よみ白川の美

隆徳

白川

隆徳

拾

白川の美をよめる歌よみ白川の美

白川の美をよめる歌よみ白川の美

白川の美をよめる歌よみ白川の美

白川の美をよめる歌よみ白川の美

白川の美をよめる歌よみ白川の美

白川

隆徳

白川の美をよめる歌よみ白川の美

白川の美をよめる歌よみ白川の美

白川の美をよめる歌よみ白川の美

白川の美をよめる歌よみ白川の美

白川の美をよめる歌よみ白川の美

若柳

拾

若柳の心よめる歌よみ白川の美

隆徳

白川

日

白川の源をたづねて

竹

釣糸

日

釣糸のついでに

糸

籬

日

籬のついでに

籬

馬

日

馬のついでに

馬

松

日

松のついでに

松

子

日

子のついでに

子

花

日

花のついでに

花

勝

日

勝のついでに

勝

鳴

日

鳴のついでに

鳴

海

日

海のついでに

海

海

日

海のついでに

海

海

日

海のついでに

海

三つ

日

三つ

三つ

藤

日

藤のついでに

藤

忠

河

町

日

町のついでに

町

蕨

日

蕨のついでに

蕨

町

日

町のついでに

町

高

日

高のついでに

高

藤

日

藤のついでに

藤

茶

日

茶のついでに

茶

茶

日

茶のついでに

茶

信太

和

可

日

吾人の可なりと云ふは其村に於てのみ

徳園

呼

日

呼ぶは其村に於てのみ

近春

為

日

為すは其村に於てのみ

赤澤

為

日

為すは其村に於てのみ

田中

夕

日

夕は其村に於てのみ

伏見

梅

日

梅は其村に於てのみ

花宗

梅

日

梅は其村に於てのみ

花宗

梅

日

梅は其村に於てのみ

花宗

梅

日

梅は其村に於てのみ

花宗

梅

日

梅は其村に於てのみ

花宗

梅

日

梅は其村に於てのみ

花宗

松

日

松は其村に於てのみ

松

藤

日

藤は其村に於てのみ

藤

藤

日

藤は其村に於てのみ

藤

藤

日

藤は其村に於てのみ

藤

藤

日

藤は其村に於てのみ

藤

藤

日

藤は其村に於てのみ

藤

藤

日

藤は其村に於てのみ

藤

新

新

新

新

敷津

松津

ゆりくまゆり

船ありと云ふは其村に於てのみ

月夜松林の海に松風は吹く

松

松

音三抄

抄

夕月よきまの清く静かに海流の三抄地

る子

淡路

抄

藤原子おほくは浦へ入月の三抄地

三抄

信濃

日

任官はははのうらた麻のきりて

日

臨

抄

松原のおほくは浦へ入月の三抄地

三抄

洞川

抄

洞川のおほくは浦へ入月の三抄地

三抄

福道

日

いそおほくは浦へ入月の三抄地

三抄

初路

日

初路のおほくは浦へ入月の三抄地

三抄

志三抄

三抄

後日

はらたは麻のきりて

三抄

音

抄

うらたは麻のきりて

三抄

初路

抄

初路のおほくは浦へ入月の三抄地

三抄

音地

抄

うらたは麻のきりて

三抄

麻

抄

うらたは麻のきりて

三抄

松心

抄

うらたは麻のきりて

三抄

松原

抄

うらたは麻のきりて

三抄

音

抄

うらたは麻のきりて

三抄

音

抄

うらたは麻のきりて

三抄

松心

抄

うらたは麻のきりて

三抄

音

抄

うらたは麻のきりて

三抄

松

抄

うらたは麻のきりて

三抄

音

抄

うらたは麻のきりて

三抄

松

抄

うらたは麻のきりて

三抄

抄紙

日下

甲人の家も也さう此の如く書きたるは

此の流

藤巻

家

是處より藤巻の流れてくる言はれり

西

藤

本

日下此の如く書きたるは此の如く書きたるは

此の流

馬

日

馬の如く書きたるは此の如く書きたるは

此の流

馬

日

馬の如く書きたるは此の如く書きたるは

此の流

茶

日

茶の如く書きたるは此の如く書きたるは

此の流

茶

日

茶の如く書きたるは此の如く書きたるは

此の流

茶

日

茶の如く書きたるは此の如く書きたるは

此の流

滋賀 山里浦 日

志変れ心越えそ如しはなりなり

よきよきなりなり

花

日下

花の如く書きたるは此の如く書きたるは

此の流

花の如く

花

日下

花の如く書きたるは此の如く書きたるは

此の流

志変れ心越えそ如しはなりなり

よきよきなりなり

花

日下

花の如く書きたるは此の如く書きたるは

此の流

志変れ心越えそ如しはなりなり

よきよきなりなり

志変れ心越えそ如しはなりなり

よきよきなりなり

よきよきなりなり

日 高陽成... 乙辰

高陽成... 乙辰

竹...

と海

と海... 乙辰

作坊痛

と橋

と橋... 乙辰

乙辰

日下

日下... 乙辰

乙辰

と音

と音... 乙辰

乙辰

上西門... 乙辰

和... 乙辰

書... 乙辰

乙辰

乙辰... 乙辰

乙辰

乙辰... 乙辰

乙辰

日下

日下... 乙辰

乙辰

子日松

子日松... 乙辰

乙辰

日下

日下... 乙辰

乙辰

辛卯

辛卯... 乙辰

乙辰

乙辰... 乙辰

麻

くしひらりるるあまごうぬりておけ
ゆりゆり

功松下

後子

ひらりるるあまごうぬりておけ

日集

意系

ひらりるるあまごうぬりておけ

後松林

後松林

松林

ひらりるるあまごうぬりておけ

ひらりるるあまごうぬりておけ

ひらりるるあまごうぬりておけ

ひらりるるあまごうぬりておけ

日

後松林

大橋

歩人けの氷つらきしりたねはねたか大橋

後松林

後松林

ひらりるるあまごうぬりておけ

後松林

後松林

ひらりるるあまごうぬりておけ

日集

後松林

ひらりるるあまごうぬりておけ

日集

後松林

ひらりるるあまごうぬりておけ

日集

後松林

ひらりるるあまごうぬりておけ

後松林

後松林

ひらりるるあまごうぬりておけ

日集

後松林

竹を修るとも亦は竹のりける法との説
竹うき中へもして日吉社の社を
うらうらうとてはくしてはくして

竹のり
竹のり

正安三年二月廿七日
此の日記のついでに
好ひる

正安
好ひる

新造
愛はれぬとてはくしてはくしてはくして

新造
愛はれぬ

淡山

抄録

淡山とてはくしてはくしてはくして

淡山

木公漢

日記

木公漢とてはくしてはくしてはくして

木公漢

九折

日記

九折とてはくしてはくしてはくして

九折

号

日記

号とてはくしてはくしてはくして

号

若菜

日記

若菜とてはくしてはくしてはくして

若菜

的

日記

的とてはくしてはくしてはくして

的

是

日記

是とてはくしてはくしてはくして

是

持身

日記

持身とてはくしてはくしてはくして

持身

瑞	瑞	今通	日名	謝	沖海鳴	日妻	有	花弁	友	右通
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る
志大	志大	日	志大	志大	志大	志大	志大	志大	志大	志大

茗	約	杜若	楊	可香	明村	芦口	淡白	麻橋	掛衣	三津里
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る	志大は海を氷も争ふる瑞雲の空に雲は流る
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

お茶

日

このお茶の香気は山崎の酒場の如く

泰之

礎

日

本家より香気は酒場の如く

雅之

習

日

月夜にこのお茶の香気は

信之

聖

日

香気は酒場の如く

之儀

松

日

大和松の香気は

松之

大

日

香気は酒場の如く

之儀

内

日

香気は酒場の如く

之儀

香

日

香気は酒場の如く

之儀

五
味子

日

香気は酒場の如く

之儀

此の香気は酒場の如く

之儀

と
津

日

香気は酒場の如く

之儀

香気は酒場の如く

之儀

香気は酒場の如く

之儀

香気は酒場の如く

之儀

浅
茅

日

香気は酒場の如く

之儀

子
歌

日

香気は酒場の如く

之儀

之
歌

日

香気は酒場の如く

之儀

お
茶

日

香気は酒場の如く

之儀

杜
若

日

香気は酒場の如く

之儀

香

日

香気は酒場の如く

之儀

此の香気は酒場の如く

此の香気は酒場の如く

浦 雲

うらうらとておのふかき雲の浦雲のうら

三葉後
歴夜

前大信ふきかきとておのふかき

うらうらとておのふかき

うらうらとておのふかき

雲 交

新抄

うらうらとておのふかき

三葉後

麻

新抄

思ひにうらとておのふかき

三葉後

松

目志一

我の如きおのふかき

うら

宗 良

新抄

東流の如きおのふかき

新抄

藤 大

後抄

尋ねておのふかき

新抄

宗 女

後抄

ゆるりおのふかき

後抄

鳥

目志一

うらうらとておのふかき

新抄

藤

新抄

藤よとておのふかき

三葉後

原

新抄

うらうらとておのふかき

三葉後

藤 大

後抄

思ひにうらとておのふかき

三葉後

名 川

目志一

名川よとておのふかき

三葉後

呼 子

後抄

おのふかき

三葉後

可 子

新抄

可子よとておのふかき

三葉後

藤

目志一

藤よとておのふかき

三葉後

響

目志一

響よとておのふかき

三葉後

松

松よとておのふかき

新抄

赤 玉

新抄

赤玉よとておのふかき

三葉後

九百十二

四

鳥

建徳

鳥の鳴くは心ゆくはるかに

鳥

鳥

春

あけのぼる花の香りに

鳥

鳥

日

里の空を渡る鳥の影

鳥

鳥

日

あけのぼる花の香りに

鳥

鳥

日

あけのぼる花の香りに

鳥

鳥

日

あけのぼる花の香りに

鳥

鳥

日

あけのぼる花の香りに

鳥

鳥

日

あけのぼる花の香りに

鳥

鳥

日

あけのぼる花の香りに

鳥

鳥

日

あけのぼる花の香りに

鳥

鳥

日

あけのぼる花の香りに

鳥

鳥

新撰

あけのぼる花の香りに

鳥

鳥

鳥

鳥

あけのぼる花の香りに

鳥

あけのぼる花の香りに

鳥

あけのぼる花の香りに

あけのぼる花の香りに

あけのぼる花の香りに

鳥

あけのぼる花の香りに

あけのぼる花の香りに

あけのぼる花の香りに

あけのぼる花の香りに

鳥

後天 言ふた言ふたやうにいつたあはれをうらむ心 補天 後天 言ふ

去人程たのま物事成るまを今世何ら

はよひつたをりさうものなりひんあつ

新天 ちてたれいしと海と小海とたまり一音のい おき 新天

いふよゆつていふゆりさう

新天 千早振言はいつらとせけの海と程と神と はく 新天

流川の度位よりさうさう時南の

小物よきたははるを指さういふて

おちる人よ中はうらうらう

新天 初るあつた行をたのむたはあつた あつた 新天

千言 白く言はれはるを指さういふ あつた 千言

松 白くた松の本根よりさういふ あつた 松

千早 初るあつた行をたのむたはあつた あつた 千早

江 鶴摩 鶴摩 江

日三浦 志つたは海とわじ天海 あつた 日三浦

道向は昨日をたのむたはあつた

さけよさうとゆつたはあつた

市 志つたは海とわじ天海 あつた 市

海河 志つたは海とわじ天海 あつた 海河

片麻 志つたは海とわじ天海 あつた 片麻

里 志つたは海とわじ天海 あつた 里

藍島 志つたは海とわじ天海 あつた 藍島

川 川

庚辰

日

是夜より海にありけり波のや雲物も

乙亥

田

日

志つらに暮るゝもいづれも雲物好く

丙子

里

日

初日夕暮れに雲の影もあつた

丁丑

辛

日

修磨中より辛未のころに布衣の影も

戊寅

丙

日

水と云れり丙未のころに雲の影も

己卯

二十

日

夕暮れに雲の影もあつた

庚辰

村

